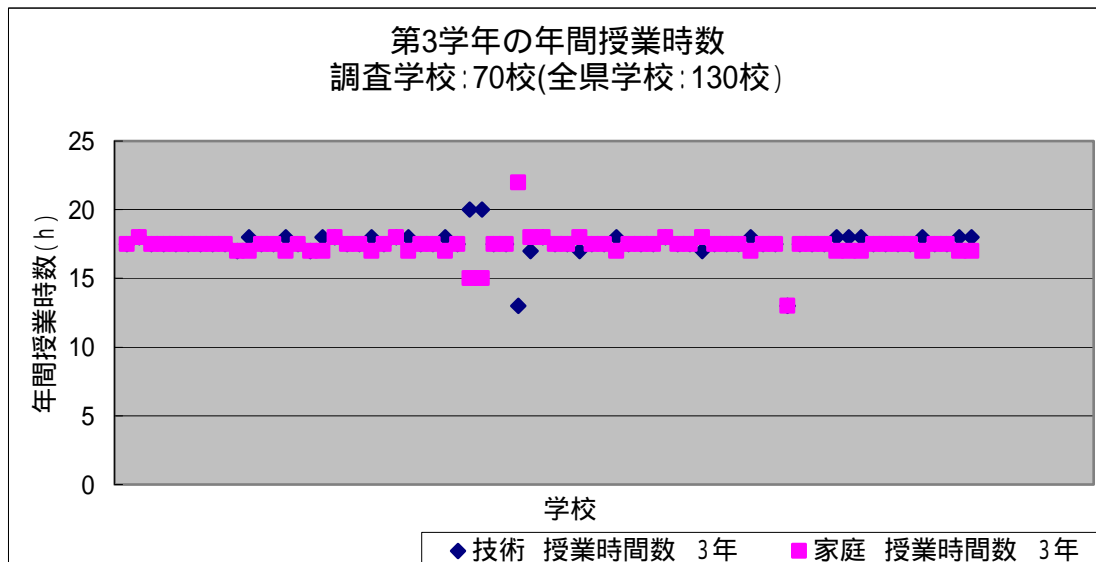


2. 年間指導計画について

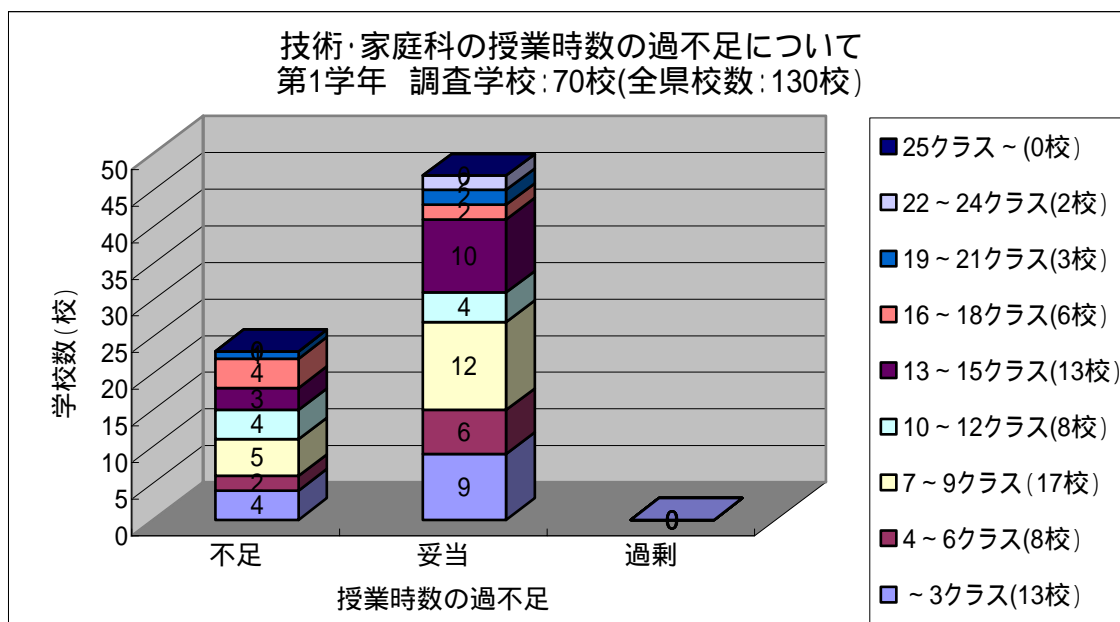
(2.A.1)



(2.A.1)

第3学年の年間授業時数は、基準である17.5時間が多くを占めているが、はっきりとはあらわれていないものの、技術分野の授業時数がやや多くなっている。

(2 . A . 2 . 1)



(2 . A . 2 . 1)

第1学年における授業時数は、「妥当」する学校が全体の67%で、比較的小規模な学校ほど多く、「不足」とする学校は33%である。

【理由(主なもの)】

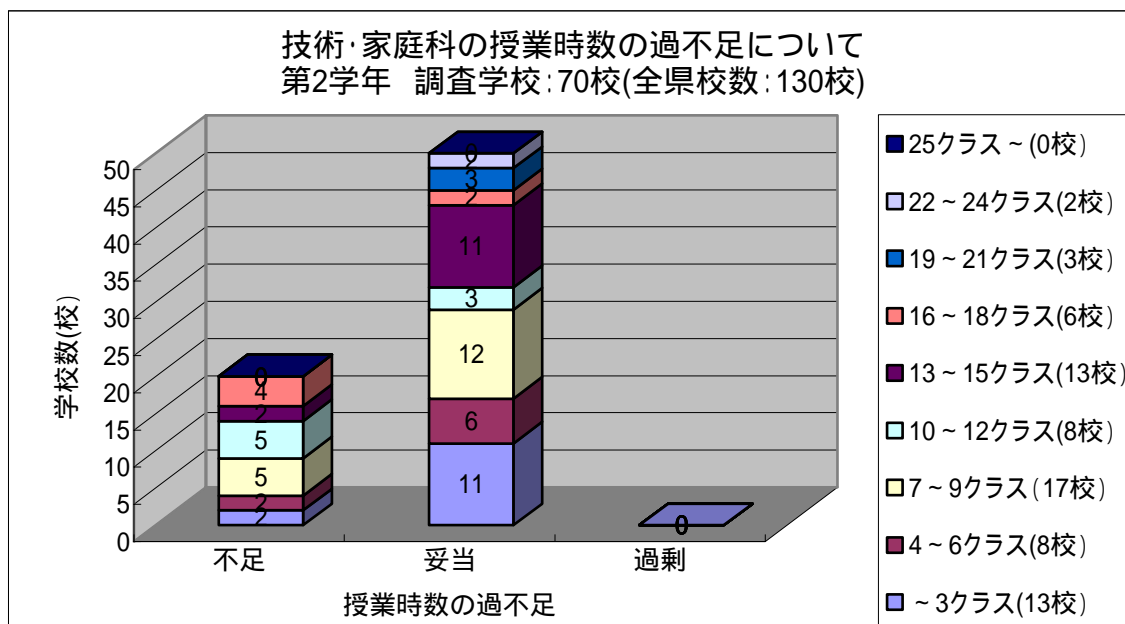
<不足>

- ・時間が足りない・不足。 7校
- ・ものづくりの実習時間が足りない。 5校
- ・十分な学習が行えない。 2校
- ・準備・片付けの時間が取れない。 1校
- ・課題解決型学習を行うには不十分。 1校
- ・授業変更により減った時間が戻らない。 1校

<妥当>

- ・男女共学のためやむを得ない。 1校

(2 . A . 2 . 2)



(2 . A . 2 . 2)

第2学年における授業時数は、「妥当」する学校が全体の71%で、比較的小規模な学校ほど多く、「不足」とする学校は29%である。

【理由(主なもの)】

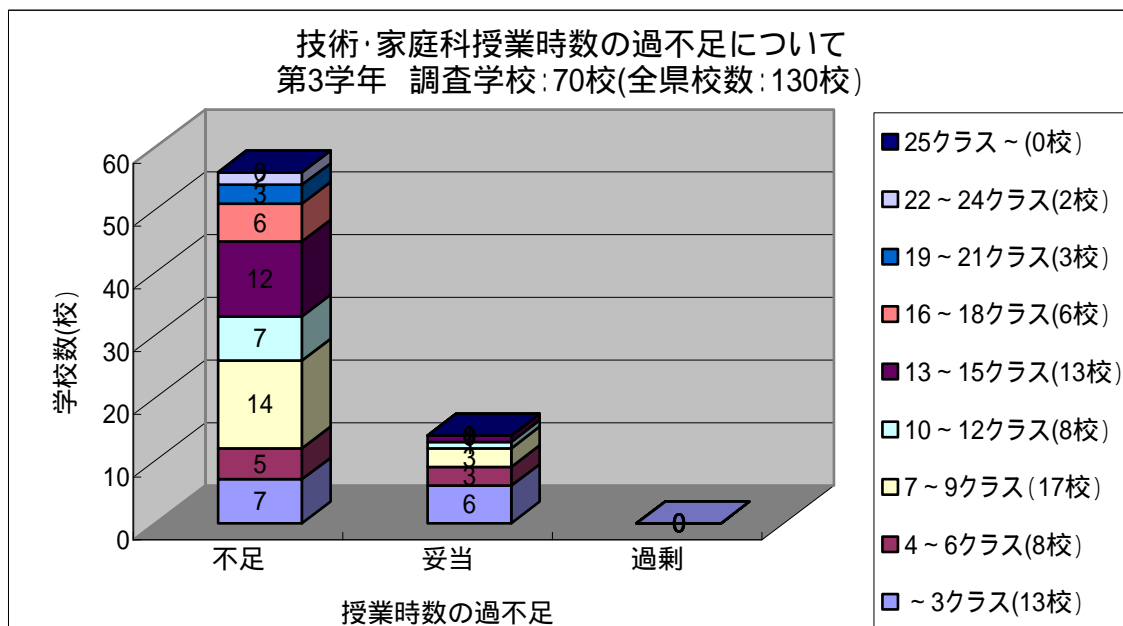
<不足>

- ・時間が足りない・不足。 7校
- ・ものづくりの実習時間が足りない。 3校
- ・十分な学習が行えない。 2校
- ・準備・片付けの時間が取れない。 1校
- ・課題解決型学習を行うには不十分。 1校
- ・授業変更により減った時間が戻らない。 1校

<妥当>

- ・男女共学のためやむを得ない。 1校
- ・「情報とコンピュータ」の学習には良い。 2校

(2 . A . 2 . 3)



(2 . A . 2 . 3)

第3学年における授業時数は、「妥当」する学校が全体の20%で、比較的小規模な学校ほど多く、「不足」とする学校は80%である。

【理由(主なもの)】

<不足>

- ・時間が足りない・不足。 19校
- ・教材の選択が限られてしまう。十分な教材が組めない。 3校
- ・学習の深化が行えない。力不足が不安。 6校
- ・準備・片付けに時間を取られる。 1校
- ・実習の時間が足りない。 3校
- ・十分な指導が行えない。 4校
- ・評価が困難。 2校
- ・授業変更により減った時間が戻らない。 2校

(2 . A 3) 授業時数に対する意見

<現状のままでよいとする意見>

- ・ 全体的に削減されている状況ではしょうがない。 1 校
- ・ 工夫次第で複合題材を作れるのではないか。 1 校

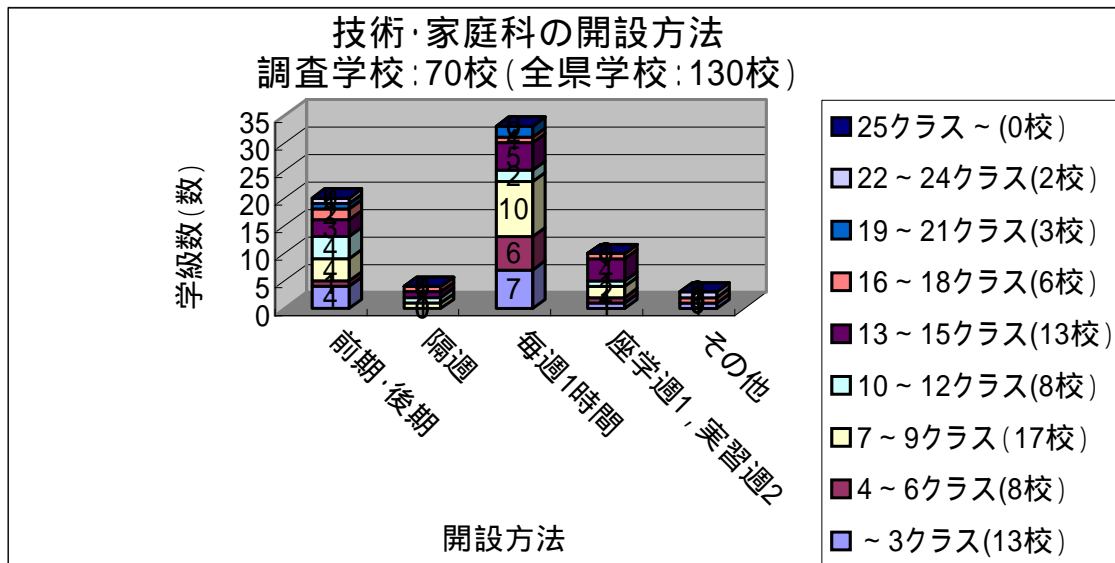
<現状では不服とする意見>

- ・ 3 年生の授業時数が不十分。 14 校
- ・ 時数が足りない。 8 校
- ・ 十分なものづくりを行えない。 6 校
- ・ 3 年生の学習内容が組めない。 3 校
- ・ 3 年生の評価が困難。 2 校
- ・ 授業変更等があると、学習内容が定着しない。 2 校
- ・ 学習内容が深まらない。 4 校

<その他の意見>

- ・ 教科書が扱いにくい。 1 校
- ・ 基礎基本が不明確。 1 校
- ・ 教科が無くなってしまうのではないかと不安がある。 2 校
- ・ 「技術とものづくり」と「情報とコンピュータ」を切り離したらどうか。 1 校
- ・ 総合学習の時間を活用して内容の充実を図っている。 2 校
- ・ 家庭科との連携を図るのが難しい。 2 校
- ・ 指導内容の精選が必要。 1 校
- ・ 専門教師が授業を持つべき。 1 校
- ・ 上記に関連して、家庭科における作品展の開催・技術科におけるロボットコンテストなど教科のアピールをはじめた。 1 校

(2 . B . 1 . 1)



(2 . B . 1 . 1)

- ・「毎週1時間」履修型が多く、全体の47%を占めている。
- ・他、「前期・後期」が29%、「隔週」が6%、「座学1時間・実習2時間」が14%、「その他」が4%である。

【前期・後期】

<理由>

- ・集中して授業を行うため。 4校
- ・評価の関係上。 2校
- ・指導計画が立てやすい。 2校

<問題点>

- ・時数に差が出る。 2校
- ・夏休みを挟むクラスが出る。 1校
- ・2学期末の生徒の負担が大きい。 1校

【隔週】

<理由>

- ・他の教員との関係上。 2校

<問題点>

- ・間が開きすぎる。 1校
- ・授業変更等があると間が開きすぎる。 1校

【毎週1時間】

<理由>

- ・評価の妥当性から。 5校

<問題点>

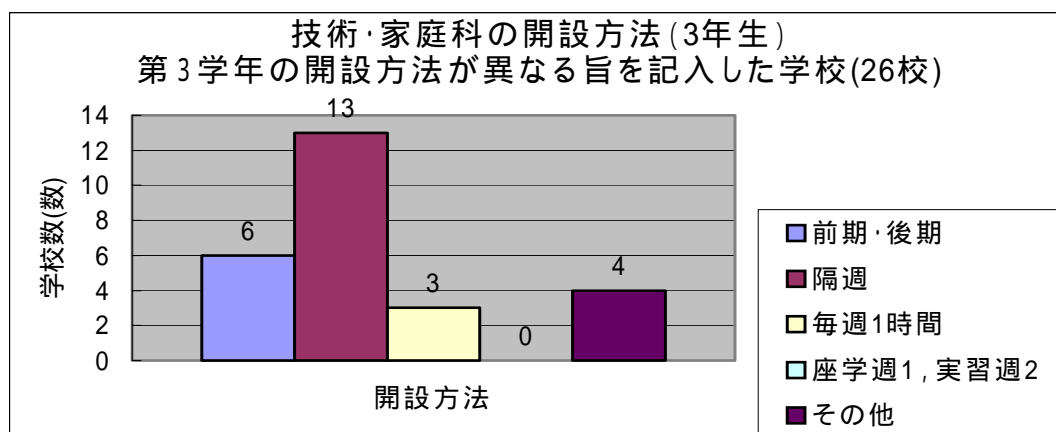
- ・評価に差が出る。 2校
- ・授業変更等があると間が開きすぎる。 1校

【座学週1, 実習週2】

<理由>

- ・評価の都合のより。 3校
- ・実習への対応を考えて。 2校
- ・3年生は、これ以外の方法は取れない。 1校

(2 . B . 1 . 2)

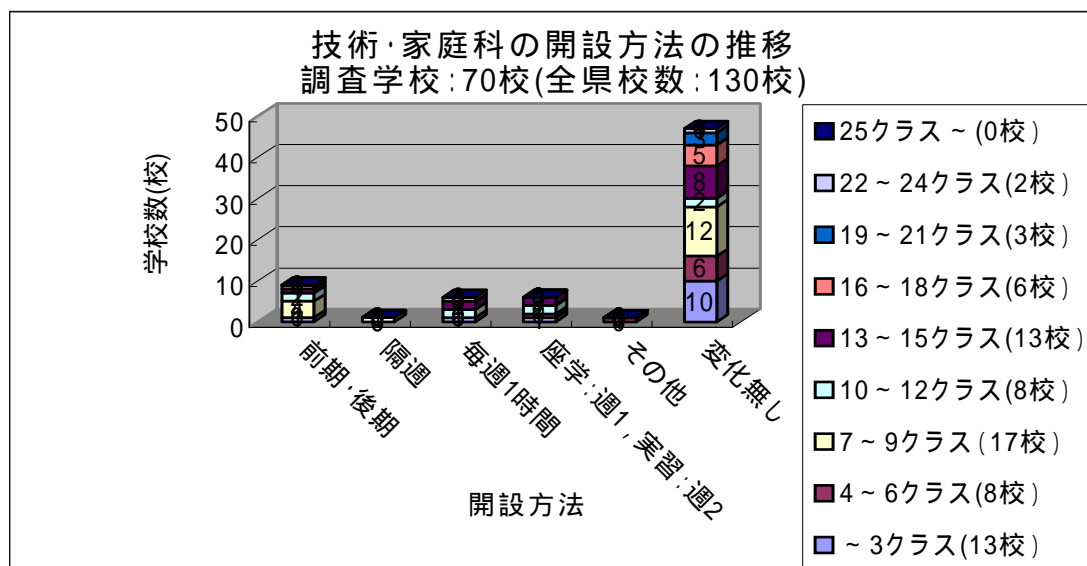


(2 . B . 1 . 2)

上記は第3学年についてのみ開設方法が異なる旨をご記入いただいた場合についてのみ開設方法をあらわしたグラフである。

- ・「隔週」履修型が多く、全体の50%を占めている。
- ・他、「前期・後期」が23%、「毎週1時間」が12%、「座学1時間・実習2時間」が0%、「その他」が15%である。

(2 . B . 2 . 1)



(2 . B . 2 . 1)

- ・「変化なし」とする学校が全体の67%をしめていた。
- ・他、「前期・後期」が13%、「隔週」が1%、「毎週1時間」が9%、「座学1時間・実習2時間」が9%、「その他」が1%である。

年間指導計画（必修の時間）について 前回調査との比較

(2. A 2. 1)

(2. A 4. 1)⁴⁾との比較

全学年ともに、技術・家庭科の授業時数を「妥当」とする学校の割合は減少し、「不足」とする学校の割合は増加した。

また、「過剰」とする学校は、0%であった。

特に第3学年においては、「妥当」とする学校が前回63%から今回20%へ、「不足」とする学校は前回36%から今回80%へと変化し、新指導要領により70時間から35時間へと改訂された影響が強く出ている。

(2. B 1. 1)

(2. B 1)⁴⁾との比較

前回は、「木材加工と家庭生活」について質問を行ったが、今回は、それに対応する「技術分野と家庭分野」について質問を行った。

開設方法は、「前期・後期」が前回73%から今回29%、「毎週1時間」が前回13%から今回47%、「座学1時間・実習2時間」が前回8%から今回14%と大きな変化が見られた。

(2. B 2)

(2. B 2)⁴⁾との比較

開設方法を変えた学校は、23校あった。その内訳をみると、

「選択肢1（前期・後期） 3（週1）」 : 5校、

「選択肢3（週1） 1（前期・後期）」 : 4校、

「選択肢4（座学1・実習2） 3（週1）」 : 4校、

「選択肢1（前期・後期） 4（座学1・実習2）」 : 3校、

「選択肢1（前期・後期） 2（隔週）」 : 2校、

「選択肢2 1」 : 1校、 「選択肢3 2」 : 1校、 「選択肢3 4」 : 1校、

「選択肢3 5」 : 1校、 「選択肢4 1」 : 1校、 「選択肢5 4」 : 1校

とな。

すなわち、(週1)へ変換する学校と、(前期・後期)(座学1・実習2)(隔週)へ変換する学校がみられ、混乱している現場の状況が伺える。その背景には、評価の公平性を優先する場合と、製作実習にかかる時間の確保を優先する場合があるものと考えられる。